

韓国駐在の日本の公務員がソウル市の「顔」を訪問 ～ソウル市新庁舎通通(トントン)ツアー～

ソウル事務所

1 はじめに

クリアソウルでは、2012年12月7日(金)に、韓国に駐在している日本の公務員を対象に、ソウル市の新庁舎を見学する「通通(トントン)ツアー」への参加企画を実施し、25名が参加しました。

2 パク・ウォンスンソウル市長表敬訪問

まず、一行は、パク・ウォンスンソウル市長を表敬訪問しました。これは、本来はツアーのコースにないものですが、クリアソウルと以前から交流のある、ソウル市国際文化交流会のご厚意で実現したものです。パク・ウォンスンソウル市長は、普段はご多忙でソウル市職員でさえなかなかお目にかかれない中、この日は幸運にもお会いすることができました。

市長室では、パク市長自らが室内の詳細な説明を行いました。その中で、本棚には無数のファイルがびっしりと並べられており、それを手に取りながら、「これは、市政に対する市民からの苦情や意見を、内容ごとに分類して整理したものです。」と自ら解説されました。パク市長の、市民の声に真摯に耳を傾けて、それを市政に反映しようとする姿勢が窺えました。また、本棚には日本の書籍も数多くあり、「日本からも学ぶことはたくさんあります。」と言われていました。

参加者からは、「世宗特別自治市の誕生により中央政府が移転することで、ソウル市にも影響があるのではないのでしょうか？」という質問が出され、これに対しパク市長は「縮小することを嫌う都市が大半だと思いますが、ソウル市は都市の縮小の問題を肯定的に捉えています。」という考えを示されました。

市長室の詳細や、パク市長の考えるソウル市行政の方向性などについて熱心にご説明をいただき、当初は30分間の予定が、終わってみれば45分間も滞在させていただきました。



市長室で説明を行うパク・ウォンスンソウル市長(左)

3 ソウル市新庁舎見学

その後、ボランティアガイドによるソウル市の新庁舎の見学ツアーが行われました。正面玄関を入るとすぐ緑色の巨大な壁が目に入りました。これは、7階の高さまでの約 1,600 m²の壁を「壁面緑化」し、夏の室温の低減や、酸素やマイナスイオンなどの発生による空気清浄の効果も狙ったものです。

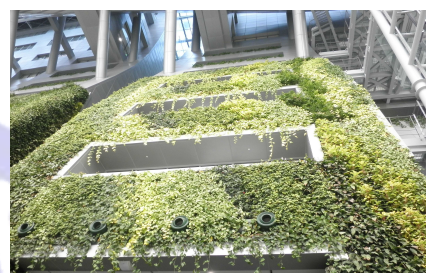
次に、9階にある、庁舎前のソウル広場を一望できるスペース「空の広場」を見学しました。ここには障がい者が運営するカフェがあり、市民も気軽に利用できるほか、展示会などのイベントも開催できます。

続いて、新庁舎の前に残された旧庁舎の建物内に新たに誕生した「ソウル図書館」を訪れました。蔵書約 20 万冊、閲覧席 390 席の規模であり、また、旧市長室や接見室、企画状況室など当時の旧庁舎をそのまま復元した展示スペースもあります。

このほか、新庁舎の地下 3 階にあるソウル安全統合状況室では、ソウル市全域の交通を統制するほか、災害状況をリアルタイムで把握できることなどについて説明を受けました。



ソウル市新庁舎（中央奥）と旧庁舎（手前）
（ソウル市ホームページより）



7階の高さまで達する壁面緑化

4 終わりに

今回の訪問は、パク・ウォンスンソウル市長、ソウル市、ソウル市国際文化交流会など多くの方々のご協力により実現しました。この場を借りてお礼申し上げます。

また、この訪問の様子は、ソウル市のオンラインニュース（下記 URL 参照）にも記事として掲載されるなど、多くの関心が寄せられました。

クリアソウルでは、今後も韓国の自治体との親密な関係を構築し、積極的に情報交換や交流を行って参ります。

<参考>ソウル市オンラインニュース

「新庁舎を見学した日本人公務員の反応は？」

日本の自治体公務員 ソウル市新庁舎『通通（トントン）ツアー』

http://inews.seoul.go.kr/hsn/program/article/articleDetail.jsp?menuID=001001005&category1=NC1&category2=NC1_5&boardID=180798&prePageCategory1=M&prePageCategory2=sTodayNews（韓国語）

（松崎所長補佐 愛媛県松山市派遣）